

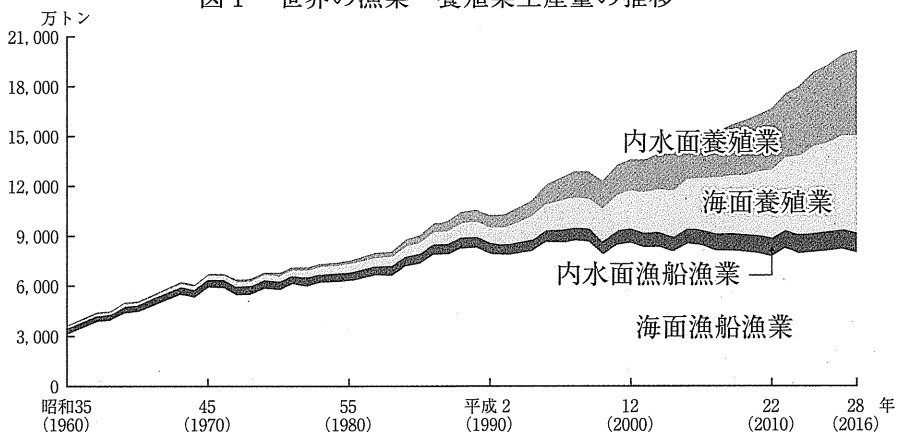
# 小 論 文

注 意

1. 問題は全部で2ページである。
2. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

問1 以下の図1～3から、世界の水産業の状況を読み取り、それを小論文解答用紙(その1)に日本語でまとめなさい。

図1 世界の漁業・養殖業生産量の推移

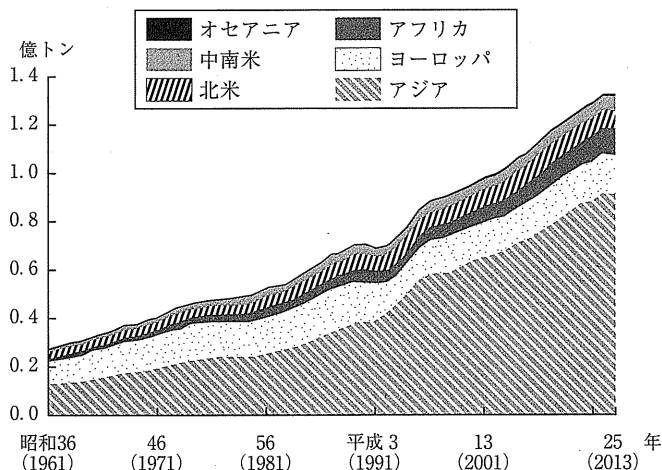


資料：FAO「Fishstat (Capture Production, Aquaculture Production)」(日本以外の国)及び農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(日本)に基づき水産庁で作成

注：内水面とは、河川や湖沼などのこと

出典：水産庁「平成29年度水産白書」

図2 世界の魚介類消費量の推移(粗食料ベース)

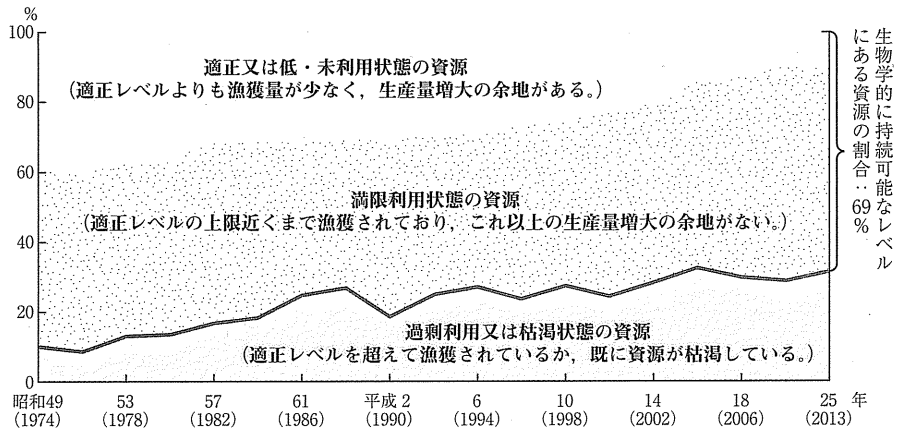


資料：FAO「FAOSTAT (Food Supply-Livestock and Fish Primary Equivalent)」(日本以外の国)及び農林水産省「食料需給表」(日本)に基づき水産庁で作成

注：粗食料とは、廃棄される部分も含んだ食用魚介類の数量

出典：水産庁「平成28年度水産白書」

図3 世界の海洋水産資源状況



資料：FAO「The State of World Fisheries and Aquaculture 2016」に基づき水産庁で作成  
 出典：水産庁「平成29年度水産白書」

問2 問1と以下の文章を踏まえて、世界共通の資源である水産資源を持続的に利用可能なものにするためには、我が国はどのような方策をとれば良いか、それら方策をとる過程で発生する問題点も含めて、小論文解答用紙(その1)に日本語で論じなさい。

サンマはマグロ類と同様、高度回遊性魚種と呼ばれ、北太平洋の公海を広く回遊する魚種です。日本は従来、日本EEZ内に回遊してきたサンマを漁獲するとともに、国内での資源管理を推進してきました。しかし、近年は公海域における中国、台湾等の漁獲が多くなっています。

一方、マサバ(太平洋系群)は、日本EEZ内を中心に生息する魚種で、日本はサンマと同様、国内の資源管理を進めてきました。その結果、近年は資源が増加期に入り、日本EEZの外側まで資源がしみ出すようになりましたが、中国等の外国による同一資源の漁獲が増加しており、資源への影響が懸念されています。

注：EEZとは Exclusive Economic Zone(排他的経済水域)を指す

出典：水産庁「平成29年度水産白書」より一部抜粋，改変

